



山野辺 裕二
国立成育医療センター病院 医療情報室長

【第9回】 この子の喜ぶ顔みてみたいねいつかね

本誌の連載の依頼を受けたあと、最後まで決まらなかったのがコーナー名でした。2年前は沖縄から、1年前が米国からということで、「海外ネタ」は封印だなぁ、身近な話題を中心に書きたいねえ……などとぼんやり考えてはいたのですが。

●ご近所の愛

1987年に若林マリ子さんが出したアルバム「エンド オブ アレインボー」、その冒頭の曲が「ご近所の愛」です。この歌の主人公は、引っ越して半年が過ぎても自分の家の周りのことをよく知らないことに気づき、近所に眠っている愛を探しにでかけます。

このアルバムを最後に、マリ子さんは永く音楽活動を停止されていました。私も数年に一度CDを引っ張り出して聞く程度でしたが、2004年の暮れ、ある方が私のWebサイトを見てメールをくださいました。

「若林マリ子さんが新しいアルバムを制作中です……」
ほどなくこの連載のコーナー名も決まっていました。

●ひとり歩き

私も引っ越してきて半年が過ぎました。東京都世田谷区には小さな路地がいっぱいです。自宅の周りをあてもなく散歩していたある夏の日、「〇〇教えます」という札のかかった家を見かけました。しばらく経ってからその家を探そうと近所を歩き回ったのですが、どうにも思い出せません。この地では習い事を始めるのにも運の味方が必要なようです。

そんな住宅街を抜けて国立成育医療センターの敷地に入ると、その中庭「成育庭園」はずいぶん広く感じられます。数本の小径、金魚の泳ぐ池、ボランティアのみなさんの手になる花壇などがあり、訪れる人を和ませてくれます。庭の中央には円形の広場と、それを取り巻くように100人近く座れそうな半円形のベンチが作られており、小さな野外コンサートでも開催できそうな感じがします。

●気の合う二人

実際には、屋内にある講堂でコンサートが開かれています。最近も「こころの癒しと芸術の力」と題したイベントで、バイオリンとピアノによるコンサートが開催されました。私も講堂まで来られない入院患者が病室で視聴することができるよう、映像と音を院内のケーブルテレビに配信する係で参加。講堂の裏にはちょっとしたスタジオ設備があり、その習得に苦労しましたが、幸い大学病院で衛星テレビ会議設備を担当した経験が役立ちました。



シンガー・ソングライターの若林マリ子さん。ライブ会場に彼女のデビューアルバム「ICE AGE」と本誌を持参しました。残念ながらまだまだファン数が少ないので、何枚でも写真を撮らせてもらえます。

私前にこのコーナーを担当しておられた大庭祐二さんの最終回のタイトルが「真夏の夜の夢」だったのを見て、私はまさに雷に打たれたような衝撃を受けました。「エンド オブ アレインボー」の最後の曲が奇しくも「真夏の夜の夢」だったので。

●真夏の夜の夢

夏の日が暮れた後、成育庭園を歩きながら見上げると、たくさんの照明が灯り、ライトアップもされた12階建ての病院のビルはなかなか美しい姿を見せてくれます。しかしその照明の下に何百人もの子供たちが入院していることを考えると、とたんに美しいなどと言われている気分ではなくなってしまいます。あの窓の中には歩けない子や、歌えない子、笑えない子がたくさんいるのです。そして私の心の中にはきまってマリ子さんの「真夏の夜の夢」が流れてくるのです。

彼女の歌は、曲の持つ力はもちろん、その声も聴く者の心をつもと違った形で揺さぶります。私もブロードウェイでミュージカルを見たときなどに鳥肌が立った経験はありますが、それらとはまた別の感覚があるのです。体の普段意識しない部分、大げさに言えば「ミトコンドリアのDNA」が共鳴するような感じと言ったらいいでしょうか。初めてこの歌を聴いた人でも、思わず涙を流してしまう人が多いといいます。

「真夏の夜の夢」では、寝ている子供たちの窓越しに妖精たちが舞い降りてきます。

この鏡も磨こう 魔法の羽根を使って
悲しい顔が二度と映らないようにしましょう
不思議なおまじない 効き目のあるこの歌で
この子の喜ぶ顔みてみたいね いつかね

いつの日かこの病院の子供たち、そしてその親たちにも、彼女の歌を聞かせてあげられたら……と思っています。

日本音楽著作権協会 (出) 許諾第0513687-501号

若林マリ子公式サイト <http://air.ap.teacup.com/marikorainbow/>

1986年長崎大学卒業。形成外科の勤務医として九州、四国の病院に勤務後、96年長崎大学病院形成外科助手。99年に念願の医療情報部門へ転籍、2000年長崎大学病院医療情報部副部長。03-04年米国マウントサイナイメディカルセンター医療情報学研究員。05年6月より現職。専門は医療情報学と病院管理学。自称外来語研究者、医療ジャーナリズム評論家。

